

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		学校法人 郡山私幼協学園 みらいサポート		公表日		令和 8年 3月 12日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		活動やお子様の状況に応じて部屋、環境設定を行っています。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		利用人数によって調整しています。	時間や業務内容等無理のないよう、業務改善に取り組んでおります。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		活動に集中しやすいように、支度スペース、課題スペース等構造化しています。		
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こどもの活動に合わせた空間となっているか。	6		掃除、玩具の消毒等を毎日行っています。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		幼稚園の多目的室や組み立て式のボックス型のスペース等を使用できるよう準備しています。		
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	6		業務の振り返りや打ち合わせ、反省等を行っています。また、打ち合わせに参加できなくても情報共有が図れるよう、共通のツールを活用しています。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		すぐに改善できるよう心がけています。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		打ち合わせ時に、様々な意見を出し合いながら業務改善に繋げています。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		6		現在は、保護者の方の評価と所内評価のみですが、必要に応じて、外部評価の実施を検討いたします。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		外部、内部研修を受けていますが、全員研修に参加することは難しい為、参加者からの研修報告等を共有できるようにしています。	研修受講により、支援の質を高めるよう努めています。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6		H P にて公表しています。		
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	6		支援会議を行い、ニーズや課題に関して話し合っています。	利用に際して見学時に面談を行い、ニーズを把握し、個別支援計画を作成していますが、発達検査の結果等でも発達状況を把握し、支援計画に活かしてまいります。	
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6		療育者だけではなく、集団生活の様子を幼稚園と共有し、支援方法等検討しています。		
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		計画書を見返しながら、支援を行っています。		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		発達検査等の結果を共有させていただき、日々の行動観察や保護者の方からのお話を聞きながら、お子さんの適応行動について確認・把握しています。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		職員間で意見を出し合い行っています。	幼稚園の先生の意見やお子様の思いを汲み取り、楽しみながら活動し、苦手なことにもチャレンジできるようなプログラムを考えております。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		同じ内容やマンネリ化にならないよう意識し、様々な自立課題や運動等を取り入れています。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6		計画通りにならないこともありますが、臨機応変に対応できるよう心がけています。		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		前日までの利用時の様子を共有し、継続して見守るべきことなどを共有したうえで、支援にあたっています。		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		支援終了後に打ち合わせを行い、お子さんの様子や課題、次の支援内容等を話し合い、全員で共通理解を図っています。		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		支援の記録は、書面に残しアプリで共有し、次の支援に活かしています。		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		6カ月に一度、お子様の現状を考慮し、モニタリングを実施しております。		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
関係機関や保護者との連携	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		相談支援員さんや幼稚園の先生等との会議には、主に児童発達支援管理責任者が参加していますが、会議時間を調整しながら保育士も一緒に参加しています。	
	25 地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		保護者の方の要望や状況に応じて幼稚園や保育園等と必要な時に連携を図っています。	必要に応じて連携が図れるようにしてまいります。
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		幼稚園の敷地内で療育を行っているため、相互理解が図りやすくなっています。	
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6		・保護者の方の要望や状況に応じて、情報共有を図っています。 ・幼稚園の敷地内で療育を行っているため、療育的視点と集団生活における視点と合わせて情報共有を行っております。	
	28 (28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。	—	—		
	29 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。	—	—		
	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。	—	—		
	31 (31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受けられる機会を設けているか。	4	2	当事業所と併用利用している児童発達支援センターのスタッフの方から情報共有や助言を受けています。	センターのスタッフの方からの情報や助言を記録に残し、所内で共通理解を図ってまいります。
	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	6		未就園のお子さんも幼稚園での活動に参加し、一緒に遊ぶ機会を設けています。	
	33 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		・療育終了後、保護者へのフィードバックをする時間を設けています。 ・写真や動画等を用いてお子さんの様子をわかりやすく伝えていきます。	面談の機会を設ける等、子どもの状況や課題について共有するよう努めています。
34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	4	2	保護者の方からの相談に対して、現在のお子様の様子を踏まえた接しかた等を提案させていただきました。	保護者の方が参加できる研修の情報共有や保護者会での内容を考えてまいります。	
保護者への説明等	35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時に丁寧な説明を心掛けております。	
	36 児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		計画書の原案の時点で、保護者の方に支援目標や支援内容等を確認させていただいております。	
	37 「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6		モニタリング時に支援計画書を確認していただき、同意を得たうえで支援方法や内容を共有しております。	
	38 定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		必要に応じて都度行っております。	
	39 父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	6		1月に保護者会を開催し、保護者の方同士での交流や子育ての困りごと等について話し合う機会を設けました。	・保護者の方からのご要望を伺いながら、保護者会での内容等を検討してまいります。 ・きょうだい同士の交流等は、今後検討してまいります。
	40 こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6		児童発達支援管理責任者を中心に対応しています。	
	41 定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		毎月お便りを発行し、活動内容や予定等周知しています。また、HPでも研修報告や事業所評価等の公表を行っています。	
	42 個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		書類は、鍵のかかる書庫で管理しています。	
	43 障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		・わかりやすい言葉で簡潔に伝えるよう配慮しています。 ・言葉だけではなく絵カードや画像等を用いて視覚的に伝えるようにしています。	
44 事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		同じ法人内の幼稚園の夏祭りや芋ほり等に参加し、地域の方との交流を行っています。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		マニュアルに沿った訓練を行い、毎月のお便り等でお知らせしております。	各種マニュアルを作成しておりますが、保護者の方にも内容が分かるような方法を検討していきたいと思えます。
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		業務継続計画を策定し、計画に沿って地震や火災、不審者対応の訓練を行っています。実施した様子は、サポートだより等でお知らせしております。	みらい幼稚園の避難訓練に参加し、また、事業所のみでの火災、地震等の訓練を行っております。
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		・契約時に情報を共有しています。 ・服薬については、保護者との連絡帳で確認しています。	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		契約時に情報を共有しています。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画を作成し、感染症についての研修や訓練等を実施しております。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		月に一度発行しているお便り等で感染症予防について等の取り組みについて周知しています。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ヒヤリハットの事例集を年度職員間で共有し、鍵の施錠など改善しました。	ヒヤリハットの事例集を職員で共有し、危険な個所の確認や対応の仕方等も考えてまいります。
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		・講師を招いて、虐待防止についての研修を受けています。 ・研修に参加していない職員も、どういことが虐待になるか指導を受けています。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。		6	現時点では拘束の必要性はないと感じますが、衝動性が強いお子さまには、危険回避のための身体拘束について説明し、同意を得ています。	対象のお子様がいる場合は組織的に決定し、個別支援計画に記載してまいります。	